

IV. 理 学 部

1. 集計データからわかること

講義科目、演習科目ともに、わずかではあるが全体として昨年のアンケート結果よりも良い評価を得ている。とくに演習科目ではいくつかの項目で確かな改善があったと見受けられる数値を得た。以下、講義科目、演習科目のそれぞれについて、昨年との比較を中心とした所見を記す。

講義科目については、はじめに述べたように、Q1～Q12のすべてについて、昨年よりも良い評価であった。まず、Q10の総合評価は、回答者ベースの単純集計平均で3.62→3.67とわずかな上昇であった。Q1の出席率は、4.55→4.57とやはりわずかであるが、昨年と同様に全学の集計平均を上回っている。Q2の意欲的な取り組みについても、3.35→3.38とわずかな上昇ではあるが、回答の傾向を見ると「強くそう思う」「そう思う」が合わせて42%台であり、昨年の41%台に比べ学生の意欲は上がっていると言えよう。Q3、Q4の授業のレベルおよび授業の速さについては、「適切である」がそれぞれ、49%→51%、55%→57%と大きく上昇し、昨年に引き続き理学部の授業の進め方が学生に適切であることを表しており評価できる一方、「高すぎる」「速すぎる」と答えた学生の割合もわずかに上がっており、学生の意欲が上がった分、授業に対する要求そのものが上昇したとも考えられ、授業を教員・学生がともに作るという意味では良い結果なのかもしれない。このことは、Q2とQ3、Q4それぞれとの相関係数が計算されていないので統計的には確認できないが、いずれにしろ、様々なレベルの学生に対する適切な対応の重要性を再認識する必要がある。Q5の教員の授業に対する熱意は、3.93→3.95とほとんど上昇していない。全学的にもあまり大きな変化が見られないが、どのようにすれば熱意が伝わるか、各教員の一層の工夫に期待したい。Q6の教室内での配慮、Q7の理解しやすい授業については、それぞれ、3.66→3.73、3.44→3.48となっている。全学的にも上昇傾向にあり、アンケート実施そのものが授業環境に良い影響を与えている可能性がある。Q8の教員の話し方については、3.45→3.58と0.1ポイントを上回る上昇を示しており全学的にも顕著である。理学部教員の真摯な授業態度の表れと見られ評価すべきであろう。Q9の知的好奇心の刺激に関する評価も、3.47→3.54と上昇しているが、全学的に見れば低い数値である。学問の性質の違いもあり単純に比較すべきではないが、知的好奇心の発揚のための工夫がさらに必要である。

次に、演習科目については、昨年と同様、出席率は高い傾向にあり、出席率80%以上と答えた学生が9割以上である。Q2の意欲的な取り組みに関しては、回答者ベースの単純集計平均で3.46→3.72と大きく上昇しており、全学平均より若干低かった昨年に比べ、改善の成果が見られる。Q3の授業のレベル、Q4の授業の速さについても、「適切である」がそれぞれ、50%→51%、62%→64%と上がっており、また、Q5の教員の授業に対する熱意、Q6の教室内での配慮、Q7の理解しやすい授業、Q8の教員の話し方についても、それぞれ、

3.67→3.85、3.33→3.57、3.30→3.47、3.29→3.54 と軒並み高い上昇を示しており、数値自体は全学的には決して高くはないが、改善と工夫の成果の現れと見て良いであろう。これらの成果が、Q9 の知的好奇心の刺激に関する評価 3.26→3.59、Q10 の総合評価 3.42→3.67 の上昇につながっていると考えられる。

2. 今後の授業改善に向けて

理学部による開講科目は、少人数教育の実践により学生と教員の関係が密であり、また、実験や演習・セミナー等における学生との接触・交渉も多く、教員は「学生の思い」を受けとめ理解しやすい環境にあるといえる。とはいえ、アンケートによる客観的な評価は、個別の授業では気付き得ない学部全体としての開講科目の教育効果の傾向を示してくれるし、何よりも、授業評価アンケート実施による教員、学生双方の授業改善に対する意識改革という点で大きな意義があると思われる。上述のアンケート結果は、2年間にわたる何回かのアンケートが、教員、学生の意識にいくらかの変化をもたらし、双方がより良い授業を目指して歩み始めたことで得られたものと受けとめたい。今後も、マンネリ化することなく改革し続けることを確認すべきである。

さて、実際の授業改善がどのように行われているのかを見るために、理学部教員の教育活動、とくに教育内容・方法の工夫について、ごく一部ではあるが例示する（これらは、学習院大学自己評価委員会編集による 2007 年度自己点検・評価報告書「専任教員の教育・研究業績編」中、理学部教員の頁からの抜粋である）。

- 試験結果を得点分布のグラフなどと共に学生にフィードバック。
- セミナー等において内容とともにプレゼンテーションの指導を一字一句まで行う。
- 各科目内容につき、教員間で常に連絡を取り調整をおこない、とくに1年生必修科目担当者間でメーリングリストを作成・運用した。
- 外部講師による啓蒙的講義。
- すべての学生に理解度に応じた学習が可能となるよう、演習問題作成の際、難易度の異なる問題を満遍なく織り交ぜる。
- 研究室ゼミに外国人講師を招き、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
- ものづくり体験を通して科学技術史にも目を向けさせる。
- ティーチング・アシスタントの積極的な利用。
- 良質問を成績評価に反映させることで、講義中の質問の奨励。
- ノートの点検および成績評価への反映。
- 数学的内容をグラフやアニメーションにより視覚化しより深い理解を促す。

FD 活動の次のステップとしては、上記を含む改善事例を集約し、より良い授業を目指して教員間あるいは学生を含めての創造的な意見交換がなされることが期待される。



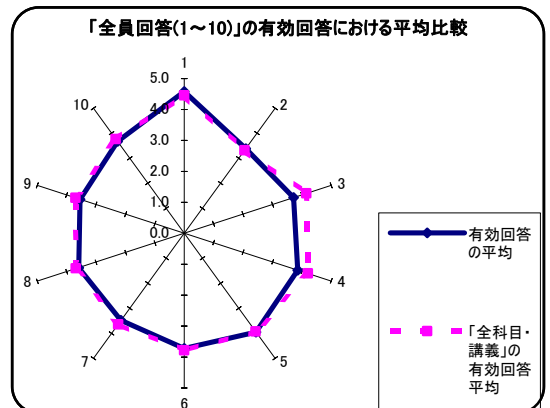
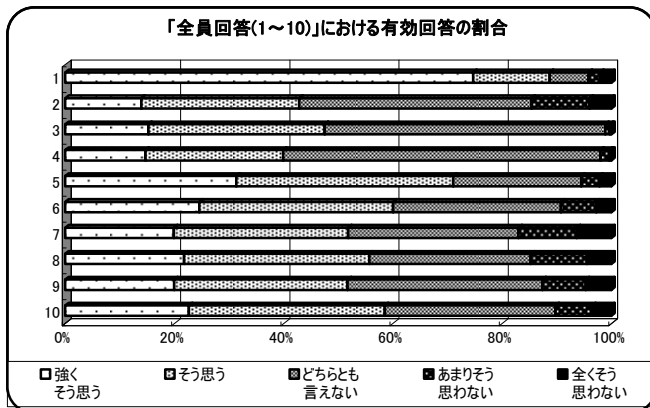
学習院大学 平成19(2007)年度 授業評価アンケート 集計結果

部門名 理学部

	合計	総履修者数	回収率
回収数	3,124	5,941	52.58%

形態名 講義

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース							科目ベース			
			5 強く そう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	1	私はこの授業によく出席している 5:出席率90%以上 4:出席率89~80% 3:出席率79~70% 2:出席率69~50% 1:出席率49%以下	2,311	433	220	66	63	31	3,124	4.57	0.872	4.57	0.322
			73.98%	13.86%	7.04%	2.11%	2.02%	0.99%	100.00%				
	2	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	430	891	1,312	329	122	40	3,124	3.38	0.983	3.41	0.377
			13.76%	28.52%	42.00%	10.53%	3.91%	1.28%	100.00%				
	3	この授業のレベルについて 5:高すぎる 4:やや高すぎる 3:適切である 2:やや低すぎる 1:低すぎる	471	997	1,588	25	9	34	3,124	3.72	1.471	3.71	0.666
			15.08%	31.91%	50.83%	0.80%	0.29%	1.09%	100.00%				
	4	この授業を進める速さについて 5:速すぎる 4:やや速すぎる 3:適切である 2:やや遅すぎる 1:遅すぎる	454	779	1,794	50	12	35	3,124	3.86	1.479	3.95	0.726
			14.53%	24.94%	57.43%	1.60%	0.38%	1.12%	100.00%				
	5	授業に対する教員の熱意が感じられる	969	1,225	724	103	67	36	3,124	3.95	0.935	4.04	0.468
			31.02%	39.21%	23.18%	3.30%	2.14%	1.15%	100.00%				
6	教員は教室内で学習にふさわしい状態に 保たれるよう心がけている	760	1,096	950	200	85	33	3,124	3.73	0.993	3.86	0.459	
		24.33%	35.08%	30.41%	6.40%	2.72%	1.06%	100.00%					
7	教員は理解しやすい授業を行っている	616	987	962	330	196	33	3,124	3.48	1.115	3.60	0.573	
		19.72%	31.59%	30.79%	10.56%	6.27%	1.06%	100.00%					
8	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は 適切である	673	1,049	912	320	137	33	3,124	3.58	1.073	3.69	0.515	
		21.54%	33.58%	29.19%	10.24%	4.39%	1.06%	100.00%					
9	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	616	982	1,100	245	145	36	3,124	3.54	1.043	3.69	0.512	
		19.72%	31.43%	35.21%	7.84%	4.64%	1.15%	100.00%					
10	総合的に見てこの授業は高く評価できる	697	1,105	962	206	109	45	3,124	3.67	1.009	3.79	0.515	
		22.31%	35.37%	30.79%	6.59%	3.49%	1.44%	100.00%					
「講義」 「語学」 のみ	11	板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である	600	952	875	342	160	195	3,124	3.51	1.105	3.62	0.579
			19.21%	30.47%	28.01%	10.95%	5.12%	6.24%	100.00%				
12	教材(教科書、配布資料等)の内容は適切である	602	977	1,092	188	65	200	3,124	3.64	0.951	3.71	0.417	
		19.27%	31.27%	34.96%	6.02%	2.08%	6.40%	100.00%					





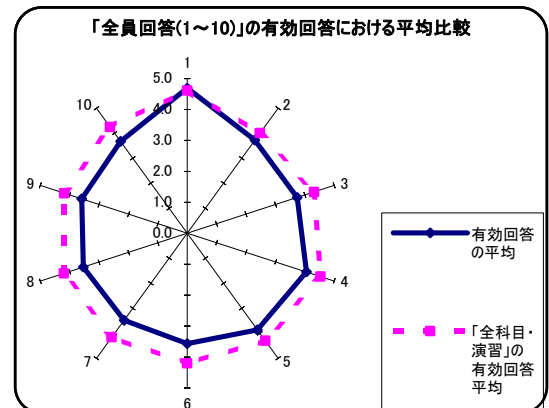
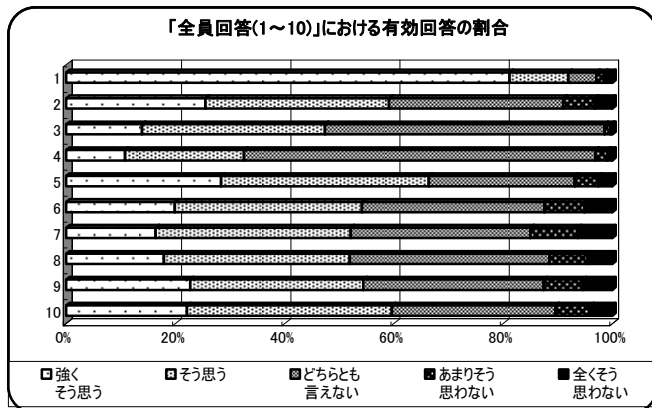
学習院大学 平成19(2007)年度 授業評価アンケート 集計結果

部門名 理学部

	合計	総履修者数	回収率
回収数	1,073	1,656	64.79%

形態名 演習

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
			5 強く そう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答				部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	1	私はこの授業によく出席している 5:出席率90%以上 4:出席率89~80% 3:出席率79~70% 2:出席率69~50% 1:出席率49%以下	865	114	55	15	16	8	1,073	4.69	0.764	4.61	0.412
			80.62%	10.62%	5.13%	1.40%	1.49%	0.75%	100.00%				
	2	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	270	356	338	61	34	14	1,073	3.72	1.009	3.65	0.508
			25.16%	33.18%	31.50%	5.68%	3.17%	1.30%	100.00%				
	3	この授業のレベルについて 5:高すぎる 4:やや高すぎる 3:適切である 2:やや低すぎる 1:低すぎる	147	355	542	11	4	14	1,073	3.74	1.440	3.76	0.480
			13.70%	33.08%	50.51%	1.03%	0.37%	1.30%	100.00%				
	4	この授業を進める速さについて 5:速すぎる 4:やや速すぎる 3:適切である 2:やや遅すぎる 1:遅すぎる	115	231	683	23	10	11	1,073	4.05	1.393	4.09	0.369
			10.72%	21.53%	63.65%	2.14%	0.93%	1.03%	100.00%				
	5	授業に対する教員の熱意が感じられる	300	403	282	46	27	15	1,073	3.85	0.966	3.82	0.456
			27.96%	37.56%	26.28%	4.29%	2.52%	1.40%	100.00%				
6	教員は教室内で学習にふさわしい状態に 保たれるよう心がけている	211	364	354	78	54	12	1,073	3.57	1.047	3.55	0.453	
		19.66%	33.92%	32.99%	7.27%	5.03%	1.12%	100.00%					
7	教員は理解しやすい授業を行っている	174	378	348	92	67	14	1,073	3.47	1.064	3.47	0.498	
		16.22%	35.23%	32.43%	8.57%	6.24%	1.30%	100.00%					
8	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は 適切である	190	361	388	74	48	12	1,073	3.54	1.009	3.54	0.451	
		17.71%	33.64%	36.16%	6.90%	4.47%	1.12%	100.00%					
9	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	241	336	350	76	57	13	1,073	3.59	1.079	3.56	0.564	
		22.46%	31.31%	32.62%	7.08%	5.31%	1.21%	100.00%					
10	総合的に見てこの授業は高く評価できる	234	397	317	67	43	15	1,073	3.67	1.017	3.64	0.558	
		21.81%	37.00%	29.54%	6.24%	4.01%	1.40%	100.00%					
「演習」 「語学」 のみ	13	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	229	329	314	68	37	96	1,073	3.66	1.030	3.63	0.497
			21.34%	30.66%	29.26%	6.34%	3.45%	8.95%	100.00%				
14	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	273	381	234	55	32	98	1,073	3.83	1.006	3.81	0.429	
		25.44%	35.51%	21.81%	5.13%	2.98%	9.13%	100.00%					



相関係数表 部門名 理学部
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12
Q1	1											
Q2	.348(**)	1										
Q3	-.025	0.034	1									
Q4	-.026	-.001	.659(**)	1								
Q5	.190(**)	.309(**)	0.007	0.021	1							
Q6	.162(**)	.343(**)	.057(**)	.089(**)	.602(**)	1						
Q7	.130(**)	.430(**)	.314(**)	.316(**)	.562(**)	.594(**)	1					
Q8	.127(**)	.360(**)	.218(**)	.302(**)	.509(**)	.544(**)	.739(**)	1				
Q9	.151(**)	.473(**)	.168(**)	.189(**)	.551(**)	.527(**)	.672(**)	.622(**)	1			
Q10	.167(**)	.456(**)	.237(**)	.261(**)	.648(**)	.599(**)	.789(**)	.700(**)	.768(**)	1		
Q11	.134(**)	.369(**)	.201(**)	.261(**)	.498(**)	.494(**)	.679(**)	.658(**)	.560(**)	.690(**)	1	
Q12	.168(**)	.360(**)	.156(**)	.137(**)	.491(**)	.487(**)	.592(**)	.542(**)	.548(**)	.611(**)	.636(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

相関係数表 部門名 理学部
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q13	Q14
Q1	1											
Q2	.403(**)	1										
Q3	0.008	0.002	1									
Q4	0.014	0.001	.595(**)	1								
Q5	.217(**)	.356(**)	0.015	0.012	1							
Q6	.186(**)	.366(**)	.064(*)	.094(**)	.635(**)	1						
Q7	.152(**)	.405(**)	.163(**)	.147(**)	.620(**)	.662(**)	1					
Q8	.161(**)	.378(**)	.107(**)	.137(**)	.567(**)	.617(**)	.784(**)	1				
Q9	.245(**)	.493(**)	.164(**)	.146(**)	.534(**)	.550(**)	.663(**)	.623(**)	1			
Q10	.228(**)	.459(**)	.151(**)	.159(**)	.648(**)	.652(**)	.773(**)	.715(**)	.781(**)	1		
Q13	.180(**)	.318(**)	.093(**)	.122(**)	.538(**)	.510(**)	.578(**)	.544(**)	.506(**)	.617(**)	1	
Q14	.184(**)	.308(**)	.194(**)	.179(**)	.560(**)	.510(**)	.605(**)	.536(**)	.532(**)	.641(**)	.711(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

【全員回答】

- Q 1 私はこの授業によく出席している
- Q 2 私はこの授業に意欲的に取り組んでいる(事前の準備や復習等を含む)
- Q 3 この授業のレベルについて
- Q 4 この授業を進める速さについて
- Q 5 授業に対する教員の熱意が感じられる
- Q 6 教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心がけている
- Q 7 教員は理解しやすい授業を行っている
- Q 8 教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である
- Q 9 この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした
- Q 10 総合的に見てこの授業は高く評価できる

【授業形態が「講義」「語学」の場合のみ回答】

- Q 11 板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である
- Q 12 教材(教科書、配布資料等)の内容は適切である

【授業形態が「演習」「語学」の場合のみ回答】

- Q 13 教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう心がけていた
- Q 14 教員は参加者が課題に取り組むのを助けた